

令和4年産大崎地域の 大豆作技術情報(第2号)

令和4年6月22日発行
宮城県大崎農業改良普及センター
TEL: 0229-91-0726 FAX: 0229-23-0910
<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

～栽培のポイント～

- ・ 茎葉処理剤を適切に散布し、雑草対策を徹底しましょう。
- ・ 中耕・培土は2回行いましょう。

1 気象経過

- ・ 5月下旬は概ね平年並の気温・日照時間で推移しましたが、6月第2半旬は低温寡照となりました。その後は気温が上昇し、天候は回復傾向です。
- ・ 降水量は5月第6半旬、6月第2半旬で多雨となりました。また、6月15日には宮城県が梅雨入りしたとみられています。降雨が続いたことでほ場が乾かず、播種作業に遅れが生じました。

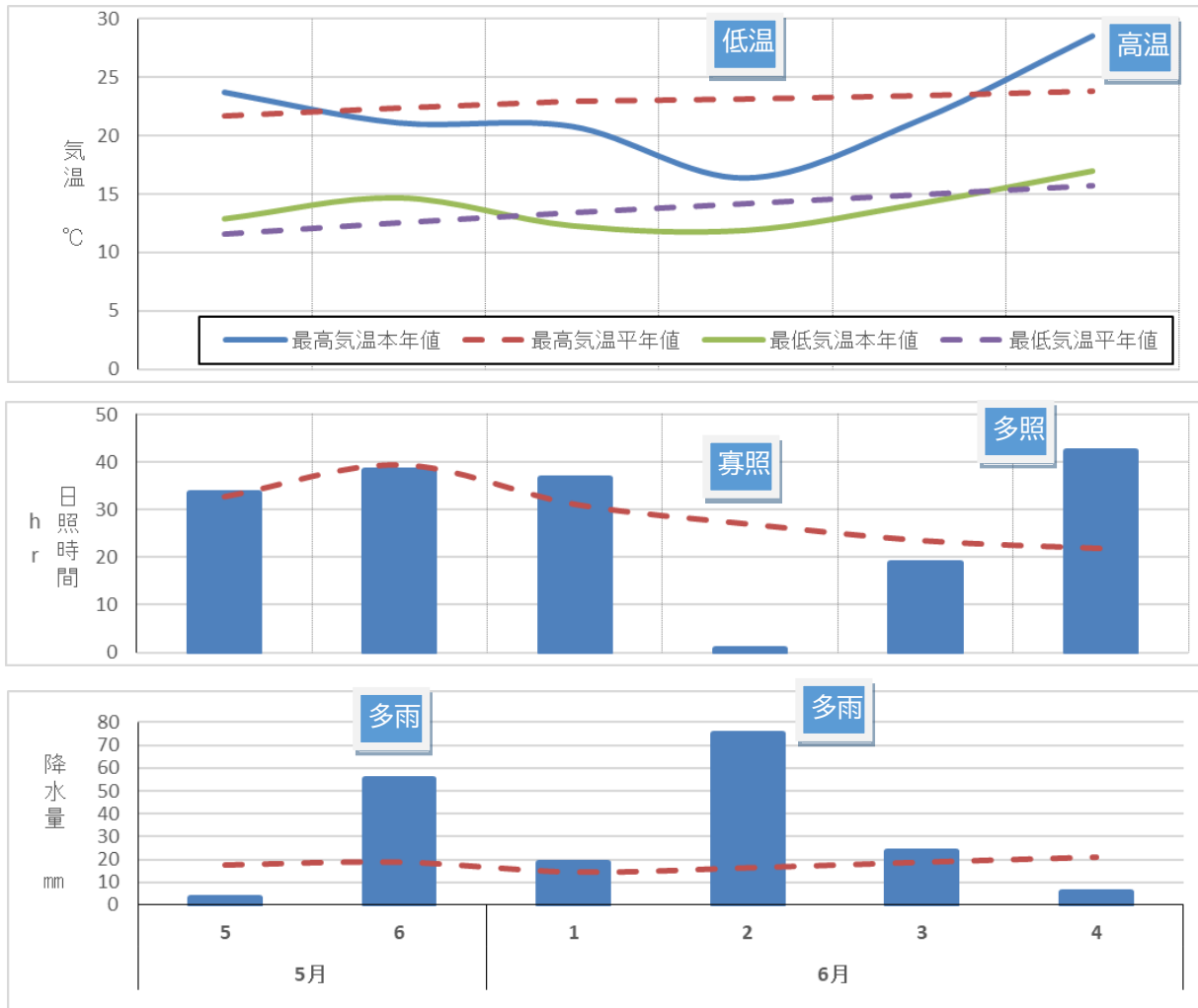


図1 気象経過 (アメダス古川)
※実線又は棒グラフが本年値, 点線は平年値。

2 雑草防除

(1) 茎葉処理剤散布のポイント

○大豆の2～3葉期（雑草が小さいとき）を目安に散布しましょう。

○ほ場に発生する雑草を知り、それぞれ効果が高い除草剤を散布しましょう。

※大豆バサグラン液剤とアタックショット乳剤では、効果が高い雑草が異なります！

図2を参考に効果の高い除草剤を散布しましょう。

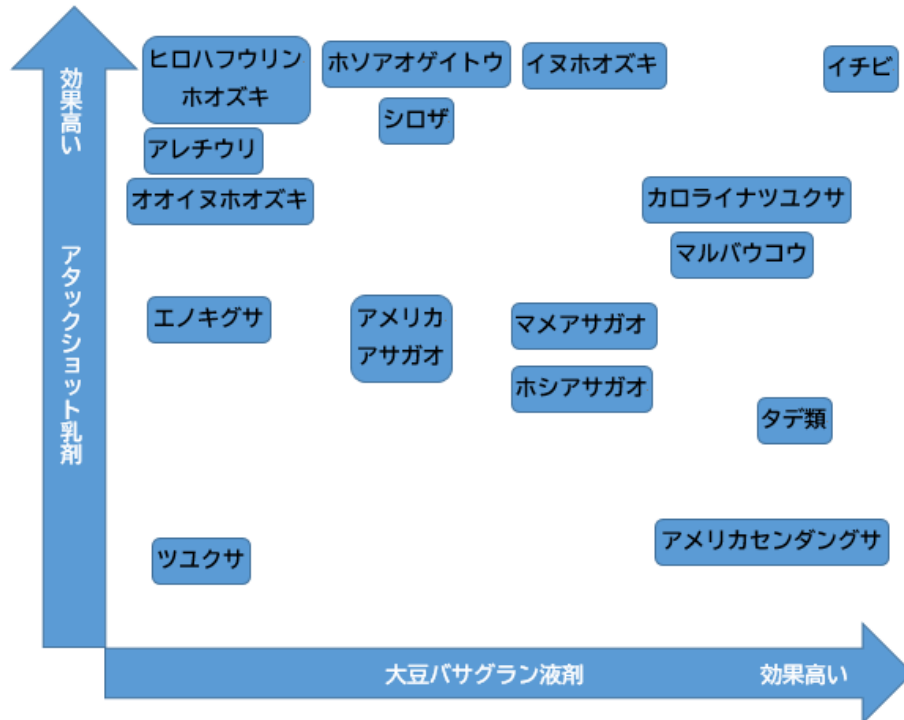


図2 茎葉処理型除草剤の主な雑草に対する効果の差

▶ 大豆バサグラン液剤の特徴

○イネ科雑草が混在する場合は、イネ科雑草に有効な除草剤との体系で使用する。

○除草効果を優先する場合は、高温・多照条件で散布する。

○薬害回避を優先する場合は、極端な高温・多照を避ける。

大豆バサグラン液剤の効果が高い雑草



オオイヌタデ



アメリカセンダングサ

▶ アタックショット乳剤の特徴

- 高温で効果が下がる場合があるが，大豆バサグラン液剤より効果の変動は小さい。
- 薬害症状が大豆バサグラン液剤より発生しやすく，低温により症状が大きくなる。
- 処理後6時間以内の降雨は効果が減少することがあるので，天候をよく見極めてから散布する。

アタックショット乳剤の効果が高い雑草



シロザ



ホソアオゲイトウ



イヌホオズキ

▶ パワーガイザー液剤の特徴

- 大豆の出芽直後でも全面処理できるため，雑草の発生が早い場合でも対応できる。
- 微量でもイネ科作物を含む周辺作物に影響を与えるので，ドリフトには注意する。
- 作用発現はやや遅効的で，薬剤の散布後約1週間程度で変色し，2～3週間で枯死する。

表1 茎葉処理剤一覧

除草剤名	対象	使用時期	希釈倍数使用量 (散布液量)	本剤の 使用回数
大豆 バサグラン 液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	大豆の2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期) (ただし収穫45日前まで)	100～150mL/10a (100L/10a)	1回
アタック ショット 乳剤	一年生広葉雑草	本葉2葉期～開花前 (雑草生育期) (ただし収穫45日前まで)	30～50mL/10a (100L/10a)	1回
パワー ガイザー 液剤	一年生雑草	出芽直前～3葉期まで (雑草発生始期～2葉期)	200～300mL/10a (100L/10a)	1回

農薬の登録情報（令和4年6月8日現在）

(2) 難防除雑草対策のポイント

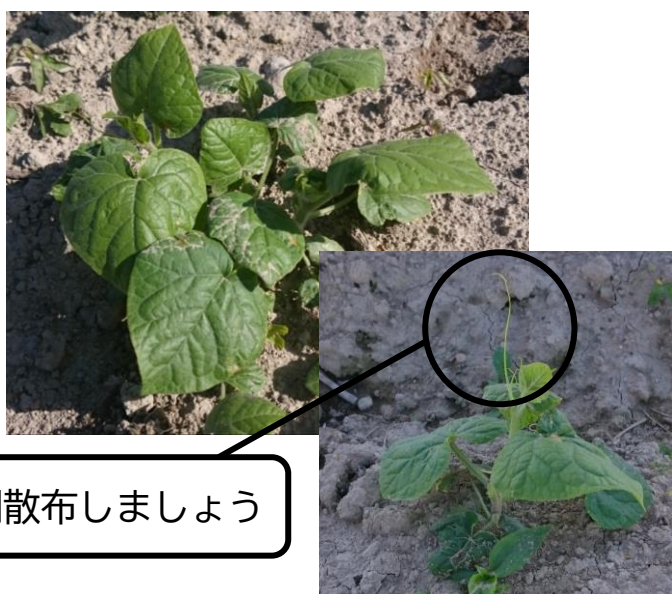
難防除雑草（アレチウリ，帰化アサガオ類）は種子の発生量が多く，ほ場への蔓延が非常に早く拡大していきます。難防除雑草は効率的な防除がないことから，早めの対策を行い，防除を徹底しましょう。

▶ 難防除雑草は入れない・広げない

- ほ場の周辺に気を配る : 畦畔などほ場の周辺から侵入することが多い。
- 雑草を他のほ場に移動しない : 発生ほ場の機械作業は最後に行い、終わったら必ず洗う。
- 侵入初期に手取りを含めて徹底的に防除する。

▶ 茎葉処理剤散布のポイント

- 大豆の2～3葉期（雑草が小さいとき）を目安に早めに散布しましょう。
- つるが伸びると大豆に絡みつき、薬剤が掛かりにくくなるので、つるが伸びる前（小さいうち）に散布しましょう。※つるが伸びて大きいものは手取りしましょう。
- 気象条件によって効果の高い薬剤が異なります。
 - ・少日照の場合 : アタックショット乳剤 > 大豆バサグラン液剤
 - ・一定の日照がある場合 : 大豆バサグラン液剤 ≧ アタックショット乳剤



つるが伸びる前に薬剤散布しましょう

帰化アサガオ類

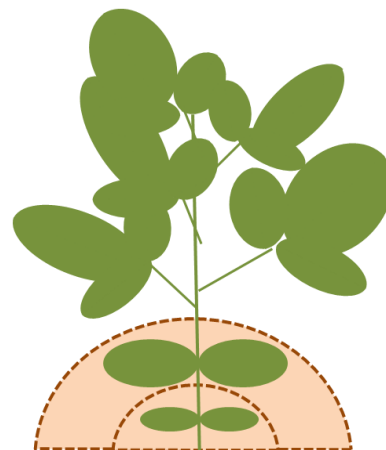
アレチウリ

3 中耕・培土

中耕・培土には不定根による生育促進や土壌の攪拌による雑草の耕種的防除等の様々な効果があります。作業時期に合わせて適切に行いましょう。

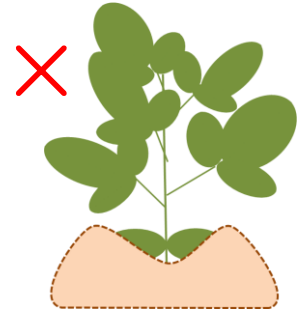
表2 中耕・培土の目安（5月下旬～6月上旬播種）

回数	作業時期	培土の高さ
1回目	本葉2～3葉期	子葉節が隠れる程度
2回目	本葉6～7葉期	初生葉が隠れる程度



▶ 中耕・培土の留意点

- 効果を高めるために必ず2回行いましょう。
※雑草の発生が著しい場合は3回実施。
- 開花期の約10日前に終わらせましょう。
- 株元へしっかり土寄せを行いましょう。株元に土が掛からないと、以下の影響が考えられます。
 - ・水たまりができる（湿害の誘因）
 - ・不定根の発生抑制（生育不良）
 - ・倒伏しやすくなり、刈り取りが困難



東北地方 1 か月予報
(6月18日から7月17日までの天候見通し)

令和4年6月16日
仙台管区气象台 発表※抜粋

<特に注意を要する事項>
期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	30	60
【降水量】	東北地方	20	40	40
【日照時間】	東北地方	40	40	20

<気温経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北地方	10	20	70
2 週 目	東北地方	20	30	50
3～4週目	東北地方	20	40	40

◆◆◆◆◆春の農作業安全確認運動実施中（4月1日～6月30日）◆◆◆◆◆

農業の死亡事故の割合は高く、宮城県内においても農作業事故は多く発生しています。過去10年間の宮城県の農作業死亡事故の発生状況を見ると、60歳以上が全体の90%を占めており、死亡事故の過半数は、トラクターが原因となっています。シートベルトの着用を徹底し、死亡事故につながるような重大農作業事故を起こさないよう十分注意しましょう。

スローガン 「しめよう！シートベルト」

◆◆◆◆◆農薬危害防止運動（6月1日～8月31日）◆◆◆◆◆

6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

「大崎地域の稲作技術情報」,「大崎地域の大豆作技術情報」,「大崎地域の麦作技術情報」は,当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索してください。